

説教

Open Church 礼拝

北浜チャーチ

黒田 禎一郎

2023年10月15日（日）

主 題：「あなたの人生、何が見えますか？」

—健全な目—

テキスト：ルカ福音書11章33－36節

はじめに

1. おはようございます

2. 先日、イスラエルから帰国したばかりの方とお会いしました。彼は Tel Aviv 大学で4年間勉強して、このほど日本に帰国されました。横にいた3歳半ぐらい息子さんは現地で生まれました。

- ・両親が息子に、「黒田牧師に挨拶しなさい」と言いましたが、息子は「恐竜ゲーム」に夢中でした。彼は一心にゲーム世界に入り込み、他の声は一切耳に入りませんでした。すると両親が彼のゲーム器を取り上げようとする、今度は大声で怒り出してしまいました。

- ・皆さん。彼はそれほど「恐竜ゲーム」に目を注ぎ、夢中になっていたのです。幼い子どもが夢中なるほど、彼の目がゲーム器に繋がれていることに驚きました。

- ・人間、自分の好きなことには夢中になります。夢中になれば、一心で他の声は入らなくなりますね。それには利点と欠点の両面があります。

- ・皆さん。私たちは毎日の生活において、いったい何を見ているのでしょうか。あなたの人生は、いかがでしょうか。何を見ておられますか。実は自分が見ているものが、自分を支配することをご存知でしょうか。

- ・私は、次のような調査結果を聞いたことがあります。

「あなたの人生、何が見えますか？」という問いを、異なる世代に投げかると、興味深い応答が出ました。

- ① 若者へ ⇒ 希望、夢、将来（光）を見る目が特徴です。（希望）
- ② 中年へ ⇒ 混迷を深める時代で、現実はどう生きるかに関心がある。
今後の社会は、一体どうなるのだろうか？（現実を見る）
- ③ 壮年へ ⇒ 定年の月日が近い。それから自分は何をし使用かと。
第二の人生をどう生きるべきかと。（制限された現実を見る）
- ④ シニアへ ⇒ 体力は低下し、気力も低下し、思うように動けない自分を見る。
すると先には、何か穴が空いたような空白が見える。

⇒ 分からない！（終活）

3. ところで、「あなたの人生は、何が見えますか？」

確実に時間は過ぎ去っていきます。

- ・ **米国第16代大統領 Abraham Lincoln は、「40歳を過ぎた人間は、自分の顔に責任を持たなくてはならない。」**と語りました。

「自分の顔に責任を持つ」とは、どういう意味でしょうか。

⇒ 顔に自分（自分自身）が現れるということです。

- ・ 自分の心を支配するものが、自分に現れます。確かに喜怒哀楽は、顔に現れますね。しかも行動にも現れてきます。
- ・ 鏡は私たちの心を映し出しますが、聖書は心の鏡です。自分の人生は、これまで何をしてきただろうか。そして未来に向かい自分はどんな顔をしているでしょうか……。何か不安になってしまいますね。聖書は次のように語ります。

11:34 からだの明かりは目です。あなたの目が健やかなら全身も明るくなりますが、目が悪いと、からだも暗くなります。ルカ

11:35 ですから、自分のうちの光が闇にならないように気をつけなさい。ルカ

- ・ 私たちの目、それはどんなものか……？

大切なポイント

1. 目は情報源である

- ・ 一般的に健常者の場合、人は目から入る情報によって支配されます。すなわち、何を読むか？ 何を見るか？ 何を求めているかです。目はすべての情報を得る源です。ですから、私たちの目に入るかは、大切です。聖書のことば；

11:34 からだの明かりは目です。あなたの目が健やかなら全身も明るくなりますが、目が悪いと、からだも暗くなります。ルカ

- ・ 現代は、SNSを通し情報は考えられないほど多く入ります。それは洪水のように、社会には多くの情報が溢れています。しかし、その中にはフェイク・ニュース、真実でないニュースもあることは事実です。
- ・ 私たちに入る情報が私たちも心を支配するならば、何を見て、何を聞いているかは大変大切であることが分かります。覚えてください、情報は目から入ってきます。聖書は、その目には2つあると述べています。

2. 情報を得る 2つの目

1) 「悪い目」 ⇒ あれもこれも欲張りのように見る目

- ・人間のエゴ（自我）は、欲の塊ではないでしょうか。もし欲の心で見ただけなら、本来、見るべきものを見ていないのです。それは、自分の欲の思いで見えていますから、欲が心を支配してしまうからです。
- ・聖書は、心の目が悪いと、からだも暗くなる、と教えています。

11:34 目が悪いと、からだも暗くなります。ルカ

11:35 ですから、自分のうちの光が闇にならないように気をつけなさい。ルカ

- ・欲張りの心で見える目 ⇒ 見るべきものが見えなくなる
⇒その結果、からだも暗くなってしまいます。
しかし、もう一つの目があります。

2) 「健全な目」 ⇒ **ひとつのものを見る目、視点が定まっている目です**
(健全な目⇒原意では「単純な目」)

- ・初代教会時代、人々は集まり「心をひとつにして、祈りに専念していた。」
(使徒1:4)

⇒ この場合の目は、「健全な目」、視点が定まっている目のことです。

- ・皆さん。私たち体の目は、年とともにその視力は低下していきます。
しかし、心の目は衰えることはありません。
- ・あなたは何が見えますか？

{例 話} 「目には目を、歯には歯を」

- ・聖書の中には、次のようなことばがあります。

出エジプト21章

21:23 しかし、重大な傷害があれば、いのちにはいのちを、

21:24 目には目を、歯には歯を、手には手を、足には足を、

21:25 火傷には火傷を、傷には傷を、打ち傷には打ち傷をもって償わなければならない。

- ・これは一般的に言われている「目には目を、歯には歯を」という法則です。
やられたら、やり返すという考えは、戦争が一例です。ですから戦争はいつまでも終わりが見えません。この悪循環は、昔も今もなんら変わりません。
- ・これは「同害報復法」と言われ、被害を受けた分だけ仕返しが許されるというものです。しかし、その意味は「被害を受けた分だけ仕返しを許すことによって、行き過ぎた報復や暴力の悪循環を止めるための法」です。旧約聖書の「同害報復法」は、弱者を保護するための特別な規定でした。

- ・イエスは、次のように言われました。

マタイ福音書 5 章

5:38 『目には目を、歯には歯を』と言われていたのを、あなたがたは聞いています

5:39 しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つ者には左の頬も向けなさい。

・皆さん。私たちの目はどこに向いているのでしょうか。

2倍が返し報復のような考えであっては、いけません。しかし、私たちには、そのような「聖人」のように生きることはできません。なぜなら、私たちは決して聖人ではないからです。 **ローマ人への手紙 2 章 10-12 節**

2:10 善を行うすべての者には、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、栄光と誉れと平和が与えられます。

2:11 神にはえこひいきがないからです。

2:12 律法なしに罪を犯した者はみな、律法なしに滅び、律法の下にあって罪を犯した者はみな、律法によってさばかれます。

・さらに、こう記されています。ローマ 2 章

2:19, 20 また、律法のうちに具体的に示された知識と真理を持っているので、目の見えない人の案内人、闇の中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だ、と自負しているなら、

2:21 どうして、他人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなど説きながら、自分は盗むのですか。

2:22. 姦淫するなど言いながら、自分は姦淫するのですか。偶像を忌み嫌いながら、神殿の物をかすめ取るのですか。

2:24. 律法を誇りとするあなたは、律法に違反することで、神を侮っているのです。「あなたがたのゆえに、神の御名は異邦人の間で汚されている」と書いてあるとおりです。

*大切なこと、完全なお方、神の御子イエス・キリストが、十字架にかかり、死んで、3日目に甦られました。死に勝利をおさめられたお方イエス・キリストによって、不完全な自分が癒やされ全き者へと変えられていきます。それは神の恵みです。

・皆さん。永遠に不変なる方(神)に視点を置くならば、⇒ 人生に光を得るなぜなら、イエスは言われました。「わたしは世界の光です。」、そして「あなたがたは世界の光です。」

ま と め

主 題：「あなたの人生、何が見えますか？」

—健全な目—

- あなたは心の目で、何をみているのでしょうか？ ⇒ 創造神に
明るく輝く人生を送る秘訣、⇒ 健全な目を持つこと。
それは、焦点を定めて歩くことです。

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。ヘブル12：2